

2015年度

# 事業計画書

自 2015年4月 1日

至 2016年3月31日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

## 目 次

I 事業方針	2
II 事業の実施計画	3
【公益目的事業】	
1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業	3
2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備	3
3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進	5
4. 誰もが海に親しめる事業の推進	7
5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用	7
6. B&G全国会議の開催	9
7. 海を守る植樹教育	10
8. 調査研究等の活動	11
9. 広報活動	12
10. 情報ネットワークの強化	12
11. 寄付金等事業	13
【収益事業】	
1. 土地賃貸事業	13

## I 事業方針

B & G財団は、本年3月に設立42年を迎えた。

2015年度は、将来を見据え、これまで行ってきた事業の淘汰、新規事業の調査研究などを踏まえ「青少年の健全育成推進計画」実行元年と位置づける。

本年1月現在、全国390の自治体に472カ所の「海洋センター」と282カ所の地域に「海洋クラブ」が運営されている。

各地では、少子高齢化、大都市への人口流出、雇用創出をはじめ様々な問題を抱えるなか、青少年の健全育成、地域住民の“健康づくり・人づくり”などを積極的に推進している。

そのようななか、「日本創成会議」は2040年には全国の約半数にわたる896自治体が消滅の可能性があるとして発表。消滅可能性のなか229の自治体は「海洋センター」所在地である。

地方自治体とスクラムを組むB & G財団では、喫緊の諸問題を抱える地方にとって、消滅可能性の公開は、ますます活力が衰退してしまうと、強い危機感を感じている。

そこで、新たなB & G財団の使命として、地域の特色に即した支援・手法により「地域コミュニティの再生・活性化」を図ることで、明るく活力ある地域社会の実現に努めていく。そのため、「海洋センター」をこれまでのスポーツ振興の場に止まらず、子供や、お年寄り、障がい者など「誰もが気軽に集える場所」へとシフトしていく取り組みを行う。

また、海への理解促進、海洋を通じた青少年の健全育成については、日本財団などと連携を密にし、従来の体験活動の提供に止まらず、環境、文化、技術など多方面の知識や活動を取り入れていく。

財団運営に当たっては、基金の果実、日本財団からの助成金、また、旧東京海洋センター跡地の貸付による土地賃貸料収入を有効活用する。

また、既に着手しているが、将来的なB & G財団の安定運営を確保するため、受益者負担の浸透、国や法人の補助金、企業協賛、寄付金募集などを積極的に活用していく。

## II 事業の実施計画

### 【公益目的事業】

公益目的事業として、「海洋性レクリエーションや自然体験活動等の各種事業により、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者の国民の心とからだの健康づくりを推進する事業」を行う。

各事業の実施計画は次のとおりである。

### 1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業

※日本財団助成申請中

海洋センターをこれまでのスポーツ振興の場に止まらず、健常者・障がい者・子供からお年寄りまで「誰にも親しまれ、気軽に集える」場所へとシフトするとともに、海洋センター施設を地域住民にとっての“たまり場”として地域コミュニティの拠点とする。

また、海洋センターの新たな活用により、自治体では手の届かない、より地域に密着した「地域コミュニティの再生・活性化」を図り、地域に活力を呼び起こす支援を行う。

#### (1) 第1期モデル自治体への施設改修・イベント開催等の支援

- ・場所：北海道、熊本県（予定）
- ・内容：施設改修、備品購入、イベント開催等への支援  
※詳細は自治体、市民団体との協議により決定  
支援費用：1自治体 上限1,000万円

#### (2) モデル自治体への財団職員等の派遣による協働事業の構築と成果検証

- ・場所：北海道、熊本県（予定）
- ・内容：財団職員等の派遣  
海洋センターを活用した交流事業等の企画立案  
住民の意識変化や満足度、海洋センターの利用状況等の調査分析

### 2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備

※日本財団助成申請中

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則A評価以上で施設の機能保全及び機能向上（バリアフリー化等）を目的とする修繕と、自然災害（地震、台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し助成金の交付を行うとともに、海洋センター艇庫・海洋クラブ及び新規海洋クラブに対して、舟艇器材の配備を行う。

また、ボートレースの収益金が広く有効に活用されていることを、広く地域住民に周知するため、助成決定書授与式を実施するとともに、リニューアルオープン式典へ

出席し、自治体執行部をはじめ、議会関係者、式典に出席した多くの地域住民に更なる利用促進をPRする。

## (1) 修繕助成金の交付

### ①通常修繕

- ・対象：30センター・32施設  
(艇庫4施設・プール17施設・体育館11施設)

### ②災害復旧修繕

- ・対象：自然災害により被害を受けた海洋センター

## (2) 舟艇器材の配備

### ①舟艇器材追加・再配備

- ・時期：2015年4月
- ・対象：海洋センター評価、海洋クラブ評価、活動状況などの申請要件を満たす海洋センター・海洋クラブ
- ・器材：救助艇、ライフジャケット、カヌー、ヨットなどの舟艇器材及び安全で円滑な活動を支える船台など
- ・配備数：艇庫を有する海洋センター・海洋クラブ30カ所

### ②新規海洋クラブ登録及び舟艇器材配備

- ・対象：新規登録海洋クラブ（通常規模2カ所・小規模2カ所）
- ・器材：救助艇、ライフジャケット、カヌー、ヨットなど活動計画・水面状況に適した舟艇器材

### ③海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材貸与

- ・対象：海洋クラブの設立を検討する、艇庫施設のない海洋センター2カ所
- ・器材：救助艇、ライフジャケット、カヌー、ヨットなど活動計画・水面状況に適した舟艇器材

## (3) 東日本大震災施設復旧修繕

2011年の「東日本大震災」で壊滅的な被害を受けた施設の復旧を目指す海洋センターに対し、災害復旧修繕助成金の交付を行う。

- ・対象：岩手県 陸前高田市

#### (4) 修繕確認等

##### ①決定書授与式

- ・時期：2015年4月～7月
- ・対象：助成金額が1,000万円以上の自治体 概ね20カ所

##### ②リニューアルオープン式典

- ・対象：海洋センター 概ね5カ所

##### ③海洋センター・海洋クラブの現状調査

- ・対象：海洋センター及び海洋クラブ

##### ④海洋センター・海洋クラブの評価

- ・対象：海洋センター及び海洋クラブ

##### ⑤優良海洋センターの表彰

- ・時期：2016年1月
- ・場所：東京都内（B&G全国サミットにて表彰）

##### ⑥海洋センター運営改善に係る協議

- ・時期：2015年10月～2016年3月
- ・対象：海洋センター評価に基づき、C・D評価等運営が低迷している海洋センター

### 3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進

少子化及び若年層の大都市圏への転出による人口減少、超高齢化による医療費の高騰や後継問題等から生じる生産性の減退など、海洋センター所在自治体をはじめ地方の活力が衰退してしまう状況にある。

そこで、海洋センターの活性化を推進することはもちろんのこと、これまでの「スポーツ振興・健康増進の拠点」から、誰からも親しまれ、気軽に集える「活力ある地域づくりの拠点」へと変革させるとともに、海洋クラブについても民間の活力を活用した地域との連携活動を促し、地域コミュニティの再生及び活性化を図る。

#### (1) 既存海洋センターへのコミュニティ機能付加改修支援 ※日本財団助成申請中

海洋センターを誰からも親しまれ、気軽に集える「活力ある地域づくりの拠点」へと変革するため、海洋センター施設を活用した「コミュニティー・オープンスペース」のアイデアを全国から広く募集し、施設の増改築や一部改修、備品等の購入を支援する。

- ・対象：10カ所
- ・上限額：100万円／1カ所

**(2) 避難所開設訓練の実施** ※日本財団助成申請中

「避難所」として指定されている海洋センターを対象に、避難所開設訓練を実施し、災害発生から避難所開設までの流れや、実際に行われた緊急対応の方法等を学び、災害が起きた際に即座に「機能する」避難所を目指す。

- ・時期：2015年7月～12月
- ・対象：避難所指定されている海洋センター5カ所

**(3) B & G 全国ジュニア水泳競技大会の実施** ※日本財団助成申請中

全国の海洋センター利用者及び海洋クラブ員（小・中学生）を対象に、日頃の練習の成果を発揮する場として全国水泳大会を開催する。

- ・時期：2015年8月
- ・場所：東京辰巳国際水泳場（東京都江東区）
- ・対象：海洋センター利用者・海洋クラブ員
- ・人数：500人

**(4) 地域情報発信のための人材育成** ※日本財団助成申請中

①ブログ等を活用した情報発信

特派員（10人）と特派員OBが取材を通じ、海洋センターや海洋クラブなどの活動情報について、ブログ等を活用し発信する。

②特派員研修会の実施

2014年度特派員（10人）を対象に、円滑な情報発信と広報スキルの向上を目的とした研修会を実施する。

- ・時期：2015年4月～5月
- ・場所：東京都内
- ・対象：2014年度特派員 10人

③海洋センター担当者等による情報発信の促進

財団公式ホームページのイベント情報を活用し、海洋センター担当者等による情報発信を行う。

**(5) Webを活用した情報発信等の充実** ※日本財団助成申請中

財団の情報発信を更に充実させるため、SNSをはじめとするITサービス連携を可能としたWebサイトの改修等を実施する。また、地域活性化を視野に入れた情報発信による新たな自治体支援にも着手する。

**(6) B&G OP級ヨット大会の実施** ※スポーツ振興くじ助成申請中

全国の海洋センター利用者及び海洋クラブ員（小・中学生）等を対象に、日頃の練習の成果を発揮する場として全国 OP 大会を開催する。

- ・時期：2015年7月
- ・場所：北浜ヨットハーバー（大分県別府市）
- ・対象：海洋センター利用者・海洋クラブ員・日本OP協会加盟の会員
- ・人数：100人

#### 4. 誰もが海に親しめる事業の推進

「海の日」制定の意義など、海洋に関する国民の理解と関心を深めるため、海洋性レクリエーション体験や、海洋産業体験、海や水辺の安全学習など、誰もが海に親しめる事業を推進する。

**(1) 「海の日」の理解を深める活動** ※日本財団助成申請予定

「海の日」の理解を深めるため、多くの人が海に集い、海に親しむ各種事業を実施・支援する。

- ・時期：2015年7月～8月
- ・場所：海洋センター・海洋クラブ等
- ・内容：舟艇試乗会等、海洋性レクリエーション体験イベント

**(2) 東京湾海洋体験アカデミーの開催** ※子どもゆめ基金申請中

- ・時期：2015年7月
- ・場所：神奈川県及び東京都
- ・内容：海洋産業体験・自然体験等の体験学習

**(3) 小学生を対象とした水難事故防止のための水辺の安全教育事業**

※年賀寄附金配分事業助成申請中

- ・場所：東京都内
- ・内容：「水辺の安全教室」の開催等

#### 5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用

海洋センター・海洋クラブにおいて、海洋性レクリエーション及び水泳の指導や施設の管理・運営等に携わり、青少年の健全育成をはじめ地域住民の健康づくりの推進並びに、地域コミュニティの活性化を担う指導員を養成する。

## (1) 海洋性レクリエーション指導員の養成

海洋センター等において、主として海洋性レクリエーション及び水泳の実践活動と、施設の管理・運営に携わり、青少年の健全育成と地域住民の健康づくり並びに、これらに必要なボランティアの育成を推進する指導員を養成する。

### ①アドバンスト・インストラクター養成研修 ※日本財団助成申請中

- ・時期：2015年6月～7月（35日間）
- ・場所：沖縄県
- ・定員：35名
- ・研修内容：財団事業概要・海洋性レクリエーション理論・実技・安全管理・施設の管理運営・指導実習・管理実習・救助艇操船ほか

### ②アクア・インストラクター養成研修 ※日本財団助成申請中

- ・時期：2015年6月（23日間）
- ・場所：沖縄県
- ・定員：35名
- ・研修内容：財団事業概要・水泳理論・実技・安全管理・施設の管理運営・指導実習・管理実習ほか

### ③リーダー研修及びブロック連絡協議会研修への支援

ブロック連絡協議会・海洋センター・海洋クラブ・地域指導者会の活動に必要なリーダーを養成する研修会や指導員研修会に対し協力をする

- ・場所：海洋センター・海洋クラブ・地域指導者会
- ・対象：8ヵ所以内
- ・協力内容：要望に基づく指導者派遣

### ④B&G指導員研修会

海洋性レクリエーションに関する事業プログラムや安全管理等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図ると共に指導員のネットワークづくりを推進する。

- ・時期：2016年1月
- ・場所：東京都内
- ・定員：150名
- ・対象：B&G指導員資格登録者及び同資格の失効者（再登録研修）、海洋センター担当者

## (2) 指導者会の登録と活動促進

地域指導者会の登録と会の活動の活性化を図るため、全国指導者会正副会長会議及びブロック責任者会議の実施。また、会員の指導スキル、知識向上を目指す研修会の開催支援を行う。

①ブロック別指導員研修会への支援 ※日本財団助成申請中

・対象：10ヵ所

②正副会長会議、ブロック責任者会議の開催 ※日本財団助成申請中

・開催数：2回／正副会長会議

1回／ブロック責任者会議

③広報活動（かわら版の発行） ※日本財団助成申請中

④第3回B&G全国指導者会総会の開催

・時期：2016年1月

・場所：東京都内

・対象：B&G指導者及び地域指導者会会員

・定員：500名

⑤指導者会の活性化支援

指導者会の継続的な活動に対する支援を行う。

## 6. B&G全国会議の開催 ※日本財団助成申請中

全国の海洋センター所在自治体の首長や教育長はじめ、海洋センター関係者を対象に各種会議を開催し、B&G財団の事業説明及び、他の自治体の事業事例や海洋センターの新たな活用方法等の情報共有を行う。

これにより、財団と自治体、また自治体同士のネットワークを強化するとともに、各自治体の地域コミュニティの活性化と青少年の健全育成を図ることを目的とする。

### (1) 第8回B&G全国サミット

・時期：2016年1月

・対象：海洋センター所在自治体首長・教育長

・場所：東京都内

## (2) 第12回B&G全国教育長会議

- ・時期：2015年11月
- ・対象：44道府県連絡協議会 代表教育長、  
10ブロック連絡協議会 幹事自治体教育長
- ・場所：東京都内

## (3) ブロック連絡協議会総会

- ・時期：2015年4月～5月
- ・対象：全海洋センター
- ・場所：全国10ブロック連絡協議会 各会場

## 7. 海を守る植樹教育 ※日本財団助成申請中

水や生命の循環の観点から、海洋性レクリエーション活動の場である海の環境を守る森の育成及び海岸防災林の役割とその価値を学ぶため、宮脇方式による育苗と植樹を、市町村と地域住民ボランティアの協力により行なう。

### (1) 植樹リーダーの養成

#### ①植樹リーダー研修会の開催

地域での育苗・植樹事業を推進するため研修会を実施し、指導者を養成する。

- ・時期：2015年5月
- ・場所：神奈川県
- ・対象：海洋センター及び海洋クラブ指導員等
- ・内容：地域の指導者20名を養成

#### ②レベルアップ研修としての植樹祭への参加

植樹リーダー研修会に参加して修了した者を対象として、宮脇方式の植樹祭への参加を依頼し、準備・運営・指導方法等を学び、指導者としての植樹の知識と技術の向上を図る。

- ・場所：宮脇方式で行われる植樹祭
- ・対象：植樹リーダー
- ・内容：植樹祭参加に係る旅費等補助

### (2) 育苗の支援

育苗を実施する海洋センター及び海洋クラブ等に対し、事業経費の補助等を行う。

- ・場所：海洋センター・海洋クラブ等
- ・実施数：20ヵ所
- ・内容：上限10万円の事業経費補助他

### (3) 植樹の支援

#### ①植樹祭の共催

植樹を実施する海洋センター及び海洋クラブ等に対し、事業経費の補助等を行うと共に、植樹する樹種の選定調査や植樹祭に講師や職員等を派遣し、自治体の植樹祭を共催する。

- ・場所：海洋センター等（4カ所）
- ・対象：海洋センター、海洋クラブ等
- ・内容：上限50万円の事業経費補助他

#### ②植樹（自主開催）の支援

育苗した苗木で植樹を実施する海洋センター及び海洋クラブ等に対し、事業経費の補助を行うとともに、植樹する樹種の選定等に対し、専門家からアドバイスをを行い植樹の実施を支援する。

- ・場所：海洋センター等（6カ所）
- ・対象：海洋センター、海洋クラブ等
- ・内容：上限20万円の事業経費補助他

### (4) インタープリテーション手法のとりまとめ

指導手法の1つとして「インタープリテーション手法」をとりまとめ、植樹事業推進のため事業実施先に紹介する。

- ・内容：インタープリテーション手法をまとめて事業実施先へ紹介

## 8. 調査研究等の活動

継続事業の検証や更なる資質向上を図るため、また、新規事業創出に向けた調査研究等を行う。

### (1) 事業成果の分析・評価

前年度の財団事業実績、海洋センター運営状況、海洋クラブの活動状況の詳細などを分析・評価し取りまとめ、活動実績報告書として発行する。

- ・完成時期：2015年6月
- ・配布先：海洋センター、海洋クラブ等
- ・内容：活動実績報告書の発行

### (2) 事業創出に向けた調査等

B&Gプランの推進に有効な新たな事業を発掘するための調査等を行う。

## 9. 広報活動

### (1) マスメディアによる広報

各事業のプレスリリースを発信し、マスメディアからの取材を得る。

### (2) プレスツアーの実施

報道関係者を対象としたプレスツアーを実施し、重点事業の広報展開を図る。

・対象：報道関係者

### (3) インターネットを活用した情報発信

公式ホームページやブログ、SNSなどを活用し、財団事業や海洋センター、海洋クラブなどの活動情報を発信する。

### (4) 映像コンテストの実施

地域の元気をテーマとしたふるさとをPRする映像等を募集し、Webや専門委員による審査を行い表彰する。

・募集期間：2015年5月～10月

### (5) 海洋センター・海洋クラブへの情報提供

財団事業をはじめ、海洋センターや海洋クラブの活動を紹介する壁新聞「アンドリーニュース」等を制作し、B&Gコンパスを通じて、海洋センター、海洋クラブに発信する。

### (6) オリジナルグッズの製作・販売

財団ロゴの入ったTシャツやポロシャツを制作し、海洋センターや海洋クラブなどに販売する。

## 10. 情報ネットワークの強化

全国の海洋センター・海洋クラブ、市町村及び指導者等との連携を強化し、情報ネットワークを活用した情報共有を進め、財団事業を効果的に推進する。

### (1) B&Gコンパスの活用

情報ネットワークシステム「B&Gコンパス」を活用し、海洋センター・海洋クラブとの情報共有を行い、財団事業を効果的に推進する。

### (2) 自治体情報のデータベース化

活力ある地域づくりと、地域コミュニティの再生・活性化に必要な各種情報を収集しデータベース化を行う。

### **(3) インターネットを利用した大会の提供**

海洋センターの利用促進を図るため、地域住民を対象にインターネットを活用した記録会を開催する。

## **1 1. 寄付金等事業**

財団や海洋センターの活動を広く社会一般へ周知するため、寄付金の募集による公益的事業を実施する。

## **【収益事業】**

### **1. 土地賃貸事業**

東京都江東区深川に当財団が所有する土地（10,684 m<sup>2</sup>）を賃貸する。  
この土地の賃貸料収益は、当財団の公益事業の推進に活用する。